

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	近くの保育所の子供たちとの交流が行えた。もっと交流回数を増やすよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的に定例会を開催し、各事業所等の話し合いの場を持ち意見交換を行なっている。また、定例会には協力機関より、講師を招き勉強会を行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的や活用方法を全職員が理解できるよう努めながら質の向上を目指している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での話し合いを通じ、率直に意見交換を行ないサービスの向上につなげていけるよう積極的に話し合っている。	○	今後は、運営推進会議の参加メンバーをもっと増やし、会議の意義や役割を理解し積極的に参加してもらえるよう働きかけたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣の医療機関にて、連絡会を行い、情報、意見交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して問題が生じた場合は、適切な介護ができるよう、相談できる体制が整っており、職員間でも話し合いを行なっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止、虐待の防止は、年間を通じて職員間で勉強会を行なっており、職員一人ひとりが、認識できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退去時の手続きの際は、家族や本人に分かりやすく書面にもとずき説明し、同意を得ている。問題がおきてからでは遅いので、危機感を持って対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見苦情は、入居者、家族とも良く話し合い、入居者、家族の方が納得できるよう努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「くすのき便り」を、定期的に発行し、写真も入れ近況報告を行なっている。また、家族とも相談し、ホームにて現金を預かっており、毎月利用明細書を領収証と共に送付している。職員の移動などは、面会時に説明を行なっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	厳寒に、意見箱を設置し、苦情、意見を受け付けているが、家族の方たちは、気軽に相談されているため、意見箱に入っていない常態である。面会時に職員が状況を報告している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会、毎日の引継ぎの際に、随時意見交換を行なっている。定例会では、同じ施設の職員も集まり意見交換を行なっており、仕事にも大いに活用できている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員に担当の入居者を決め、責任を持って家族の方にも対応している。家族の意見にも誠意を持って対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は、入居者のかかわりに影響が出ないよう、最小限に抑えて行なっている。常に利用者との関係を考慮して行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者が、職員育成の重要性を認識しており、各種研修に参加の機会がある。又研修後、その内容を書面にて周知している。年間を通じて研修機会を確保しており、働きながら学んでいる。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会にも参加しており、他のグループホームの状況を聞いたり、勉強会を行い質の向上に努めている。他の福祉施設や協力機関と共に定例会にも参加していただき、情報の交換を行なっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを感じている職員には、他の職員がフォローし、ストレスにならない環境づくりに注意している。また、職員の親睦会を行いストレスの軽減を考えている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日勤帯、夜勤帯に職員を配置し、入居者支援に、支障が無いよう勤め、職員同意で日常的に、助言や指導を行なっている。常に職員の一人ひとりの努力でホームが成り立っていることを話し、運営者は職員の向上心を持てるよう声掛け感謝の心を伝えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の際に、インテークを取り、生活歴など把握している。そのときに、本人の不安な状態を聞き、本人の思いを受け止めるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談する家族の立場に立ち、家族からの話を十分に聞き、受け止めながら信頼関係を築いていく。本人と家族との思い違いなどが見られるも、その家族自身を受け止めるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の相談員とも相談し、本人や家族の意向を含め、何が必要なのかを見極め対応している。最善の支援を行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心してサービスを受けられるように、利用開始前に、職員が会いに行ったり、グループホームの行事に参加されたり、徐々に馴染みの関係をつくっていきけるようにしている。また、できるだけ入居前に本人、家族と一緒に見学していただけるように努めている。	本人が安心してサービスを受けられるように、利用開始前に、職員が会いに行ったり、グループホームの行事に参加されたり、徐々に馴染みの関係をつくっていきけるようにしている。また、できるだけ入居前に本人、家族と一緒に見学していただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の生活の知恵、一般常識など教わったり職員は家族の一員として生活するように心がけている。昔ながらの料理、漬物の漬け方など沢山教えていただき頼りにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、家族の方とも悩みを分かち合い、共感するよう話しかけ働きかけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホーム主催の行事の場で、家族と一緒に食事されたり、家族同士の交流も図られている。本人や家族の生活歴などを把握し、より良い関係が築いていけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや行きつけの場所など家族、本人から聞き関係が途切れないようにしている。家族での集まりごとがある場合は、外泊、外出され、家族や近所の方との交流を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	朝の牛乳を取りに行ったり、配ってもらったり、入居者同士がお互いに支えあっている場面が見られる。散歩時は車椅子を押してもらったり、興奮した入居者の話を聞きなだめてくれたりする場面も見られる。職員がさりげなく援助を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族と相談し、退去先となる施設には、事前に情報を提供している。退去時には、家族や本人に、いつでも相談を受けたり遊びに来られるよう話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から気づいたことを、引継ぎの際に職員全員で意見交換をし取り組んでいくようにしている。もし解決できない場合は、上司にも相談し解決に努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、今までの生活歴について、本人や家族から聞くようにしている。できるだけホームの生活に取り入れるよう努めている。職員全員に申し送り、本人が安心して暮らせるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活を過ごす中で、職員全員が利用者一人ひとりのできる力、できないことを観察しミーティング時に、話し合い意見交換を行なっている。暮らしの中でできることが増えるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には、面会時などに、意見を聞いている。本人には日々の会話の中からさりげなく聞き、その人らしい生活が継続できるよう介護計画書に反映できるよう努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は期間にとらわれず、現場で実践できる介護計画書になるよう努めている。病院からの退院時や著しく身体状態が変化した時も実施している。臨機応変に見直すようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活に気付いたことを取り入れたり、そのことを、話し合っている。すべての職員が介護内容が確認できるように、介護記録にファイルしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向、要望があるときは職員全員で話し合い、そのときに必要な支援の仕方を話し合っている。在宅支援の一環として、短期入所(ショートステイ)も可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月の誕生会では、ボランティアの慰問があり利用者は心待ちにしている。また、警察署の協力により交通安全教室など開催している。防災訓練も消防署の協力により指導いただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーや医療ソーシャルワーカーとの連絡を密にして、情報交換を行なっている。入居者、家族の方、かかりつけ医師、とも相談し必要に応じて医療機関にてリハビリテーションを行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところは問題となるところはないが、運営推進会議に参加していただき、意見交換を行なっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関や往診可能な歯科医院を確保している。緊急時には連絡し、受診適切な医療が受けられるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の自尊心を傷つけないようさりげなく声掛けし、引継ぎや申し送りノートで伝達し、プライバシーの保護を徹底し、個人情報の取り扱いには、秘密保持の原則を徹底するよう話し合っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者本人を主体とし、本人の思いや希望が話せるよう働きかけている。物事が選択できる場面をつくるよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の得意としていることや、今まで行なっていた習慣を大切に、日々の暮らしが、その人らしく生活できるよう、本人のペースを大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は、本人の好みや意向に応じて個別に支援している。行きつけの理容、美容院がある入居者には同じ店を利用できるよう支援している。衣類は季節のおしゃれを楽しめるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食職員も利用者と、一緒に食事をしている。旬の食材新鮮なものを取り入れ、利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫して食事を楽しんでもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの好みや意向を大切にしている。煙草は好む時間に自由に楽しまれている。喫煙所に、入居者が自由に行き来できるように援助している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけオムツを使用しないようケアを行なっている。排泄チェック表で排泄間隔を把握し、トイレでの排泄を行い気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の日は決めておらず、本人の希望する日に楽しく入浴が楽しめるよう支援している。また、入浴は、本人の意向を聞きながら無理強いすることなく入浴を促している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠パターンを介護記録に記入し、利用者が安眠できるよう生活の過ごし方を職員、医師と検討しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員と一緒に、洗濯物をたたんでもらったり、干してもらったり、自分にあつた役割を行なっている。張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者本人の希望を聴き、家族と相談した上で支援している。時々買物に出かけているが、一部の入居者に偏っている。家族送迎で行なっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中天気の良い時は、施設内の庭を散歩し、気分転換を図るように努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見、森林浴、菖蒲見学、菊花展など季節の移り変わりを、楽しんでいただけるよう、外出支援を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用できるようにしており、家族に電話をかけられるよう支援している。通話中は席を外すなどプライバシーにも配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族やお友達の訪問の際には、飲み物を出し、ゆっくりくつろいでもらえるように、居心地良く過ごせるよう職員は環境づくりに気をつけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止会議は、年2回全職員で、勉強会を行っており、全員認識できている。マニュアルを作成し、全員が把握できるように周知している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	できる限り施錠しないよう努めている。精神的に不安定になり、転倒や転落が予想されるなどのやむえない場合以外は、施錠しないよう努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在は常に把握し、安全確認を行なっている。プライバシーを考慮した声掛けを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や刃物などを使用する時は、見守り声掛けを行っている。入居者にあわせ、分かりやすい言葉で声掛けしている。注意が必要な物品は、保管場所を決め鍵を掛け管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急・事故防止会議を定期的に行い、勉強会を行い職員の意識向上を図っている。事故を未然に防ぐための方策を検討している。転倒を起こしやすい人には、常に見守りを行なっている。火災が起きないように火元の確認を毎日行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時には、協力機関に連絡対応し、ホーム独自のマニュアルを作成し、勉強会を行なっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら、消防訓練を年数回実施している。一人ひとりの利用者の状態を踏まえ、災害時にあわてないよう、消火器の使い方や夜間の搬送法を習ったり、定期的に訓練を行なっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	これからの生活におけるリスクに関しては、家族に説明し、入居者が安心して生活できるよう支援している。また、身体拘束は行わない方針を説明し対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルサインチェックや食事摂取量の確認を行い、体調の変化を確認している。協力機関や往診可能な歯科も確保している。また、緊急時には至急対応出来る様になっている。家族にも報告行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の主治医からの、服薬内容など詳しく書いた書類を確認し飲んでもらっている。飲み忘れや誤薬ないように一人ひとりの薬に名前を書き、食事ごとに分け、飲む前に名前、時間を確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄チェックを毎日行い排便の有無を確認している。水分補給は、一日2回各居室にペットボトルを配置している。数日排便がない場合は、主治医の指示を受けている。また、便秘になりやすい人には水分を多く摂取してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けを行い洗面所で口腔ケアを行い清潔に努めている。また、不十分な箇所は一部介助にて行なっている。夜間は義歯の消毒も行なっている。毎日の習慣となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立やカロリー計算は栄養士と共に行い、糖尿病食や減塩食など個別のメニューを提供している。ペットボトルにお茶を入れ個々の名前を記入し、水分摂取量を確認している。栄養状態を把握しており、毎週体重測定を行なっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日の手洗いは利用者、職員とも積極的に実行している。手洗い、うがい、換気、消毒やごみの分別など行う。ホーム独自のマニュアルを作成し、職員の勉強会も行なっている。インフルエンザの予防接種を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、食器、布巾、まな板の洗浄、消毒を行なっている。食材は栄養士の指示のもと安全に保管している。食中毒の勉強会を行い職員全員で知識を持ち管理するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先の、プランターに季節の花を入居者様と一緒に植え、一般の家庭のような雰囲気づくりを行なっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ入居者にとって居心地よいようにと、季節の花を食堂や入居者の部屋に飾るなどし工夫している。共有スペースや廊下は蛍光色の電球は使わず、暖かい明かりの電球を使用している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの共有スペースには、畳の間や一人用のソファを設け自由に過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、自宅で使い慣れたお茶碗、お箸、湯のみ、テレビなど持参していただき、自宅で生活している雰囲気でも過ごし、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室、トイレなどに空調を設備し、掃除の際には必ず換気している。利用者の要望や気温にあわせ、冷暖房を使い分け温度調節を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止の観点から、すべてに段差がないように設計している。全室個室であり、プライバシーの保護ができ、自立した生活が送れるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室やトイレの場所など、混乱がおこらないように、個人に合わせた目印などをつけ、分かりやすくしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに鉢植え、玄関には季節の花を育てている。また、内外に、物干し場を設置し一緒に洗濯物を干したり、取り込みたたんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様の健康管理については、協力医療機関との連携により万全を期しており、入居者様、家族の方とも安心して生活されている。開設から5年立ち、できることができなくなったりするなか、利用者様、その方のペースで過ごしていただけるよう支援しています。利用者様一人ひとりが出来る事を生かして、役割を持ち、楽しく生活できるよう心がけています。